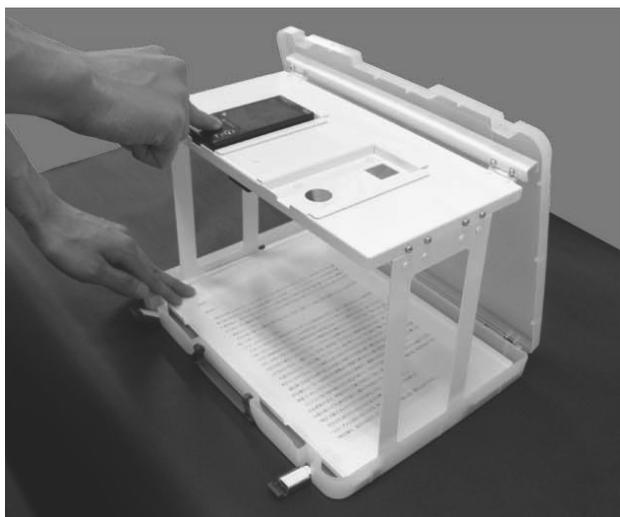


「携帯リーダー」 CR-1000 取扱説明書



株式会社アメディア

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田 2-15-10

西早稲田関口ビル 3 階

TEL: 03-5286-7511 FAX: 03-5286-2567

ホームページ: <http://www.amedia.co.jp/>

安全上のご注意

◎ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載しています。お使いになる前によくお読みのうえ、正しくお使いください。

●本体について

・水をかけたり、濡らさないでください。
湿気の多い場所（浴室や台所など）で使ったり、本体内部に水が入ると、火災や感電の原因になります。
万一、水が入ったときは、すぐに電源ケーブルをコンセントからぬき、アメディアにご相談ください。



・指定以外の充電アダプタは使わないでください。
指定以外の充電アダプタをお使いになると、火災や感電の原因になります。



・電源は交流（AC）100Vをお使いください。
指定以外の電圧でお使いになると、火災や感電の原因になります。



・濡れた手で電源ケーブルをぬき差ししないでください。
感電の原因になります。



・分解、改造しないでください。
内部に異物が入ると、故障や火災・感電の原因となります。点検や修理はアメディアにご連絡ください。



・落下させたり、強い衝撃を与えないでください。
精密電子機器ですので、高い所などから落ちた場合、破損する恐れがあります。また、破損時の破片などで、人体に傷害を与えることがあります。



・圧力を加えたり、上に重いものをのせないでください。
破損する恐れがあります。



●ユーザー登録について

本製品にはユーザー登録カードが同梱されています。必要事項をご記載の上、株式会社アメディアまでお送りください。お客様のご登録は、保証やサポートをさせていただく上で必要となります。

●保証について

同梱の保証書を大切に保管してください。保証期間は購入後1年間です。

保証期間中は、お客様の過失または不適切な利用が原因でない限り、本製品の故障に対して無償で修理いたします。不適切な使い方による物理的な破損に対しては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。また、機器の修理・交換のさいに、お客様が本製品に記録された内容が消去・破壊される場合がございます。記録内容の補償についてはいたしかねますので、ご了承ください。

故障と思われる現象が発生した場合には、まず販売店にご連絡ください。お客様の機器の状態を確認した上で、お送りいただく必要がある場合には、送り先を連絡いたします。なお、修理の場合には、本製品を返送していただきますので、梱包用の箱は大切に保管しておいてください。

●パッケージの内容

本製品のパッケージには、以下の物品が同梱されています。欠損または欠品がある場合は、本製品がお手元に届いてから2週間以内にご連絡ください。無償で対応させていただきます。

1. 本体ケースと携帯リーダー本体

本体ケースの中に携帯リーダー本体とお手入れ用の布が入っています。

2. 標準固定台

3. 備品

備品ケースの中には以下の備品が含まれています。

- ・充電アダプタ
- ・専用イヤホン
- ・USB ケーブル
- ・イヤホンスポンジ

4. 書類袋

書類袋の中には以下のものが含まれています。

- ・保証書
- ・ユーザー登録カード
- ・活字取扱説明書（本書）
- ・CD 取扱説明書
- ・ソフトウェア使用許諾契約書
- ・備品価格表
- ・予備のボタンシール

なお、上記以外にサービス品やアメディアからの広告チラシ等が含まれることがあります。

● ボタンシールについて

本製品では、中央のボタンを囲む4つの角にゴムのシールをつけてあります。このボタンは、視覚障害者が触って判りやすいようにアメディアで貼付したものです。元来の本体には付いていないものなので、取れても故障ではありません。

操作に慣れてくると、シールをつけていない状態の方が使いやすい場合もありますので、お客様の判断で、シールを取っていただいても結構です。また、パッケージには予備のボタンシールが同梱されています。ボタンシールを別途ご購入の場合は、アメディアまでお問い合わせください。

●はじめに

携帯リーダーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

アメディアでは、1996年にパソコン用の印刷物読み上げソフト「ヨメール」を、2003年に音声拡大読書機「よむべえ」を発売し、印刷物を音声で読みあげることで見えない・見えにくい皆様のお手伝いをして参りました。

そんな中、持ち運んで読書できる携帯型の機器を要望する声が高まってきておりました。そして、このほど携帯型の拡大読書ができる印刷物読みあげ機「携帯リーダー」を発表することができました。

本製品が皆様の生活に少しでもお役に立ちますよう念願しております。

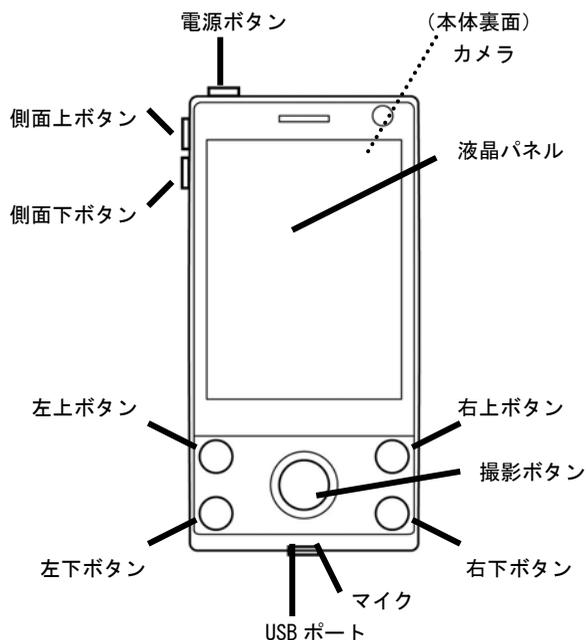
2010年1月

株式会社アメディア 代表取締役 望月優

—目次—

1. 本体各部の名称	7
1.1. 電池の入れ方	9
2. 固定台	11
2.1. 組み立て方	11
2.2. 携帯リーダーの置き方	12
2.3. たたみ方	12
3. 起動と終了	13
4. 各モードの役割と操作	14
4.1. 文字読みモード	14
4.2. ブロックモード	15
4.3. 色読みモード	16
4.4. 拡大モード	16
5. 各モードに共通の機能	18
5.1. ページの移動	18
5.2. ページの削除	19
5.3. 文書の移動	19
5.4. 音声メモ	19
6. 各種設定と情報	20
6.1. 音量と音声の変更	20
6.2. 画面表示の変更	20
6.3. 日付と時刻の変更	21
6.4. 各種情報の報告	22
7. 外部の機器との接続	23
7.1. 専用イヤホンとの接続	23
7.2. パソコンとの接続	23
7.3. よむべえとの接続	23
8. 故障かな？と思ったら	24
8.1. 電源が入らない	24
8.2. ボタンを押したり、パネルに触れても反応しない	24
8.3. 音声をしゃべらない	24
8.4. 撮影しても読みあげない	25
8.5. ボタンの反応が悪い	25

第1章 本体各部の名称



- ・ 液晶パネル：プラスチックの表面部分。現在読みあげている内容が表示され、指でなぞるようにして操作します。
- ・ 電源ボタン：本体上側面にあるボタン。電源のオン・オフに使用します。
- ・ 撮影ボタン：パネルの下にある丸いボタン。印刷物の撮影に使用します。
- ・ 左上ボタン：撮影ボタンの左上にあるボタン。押すとメニューが表示されます。
- ・ 左下ボタン：撮影ボタンの左下にあるボタン。モード切り替え、表示切り替えに使用します。

- ・ 右上ボタン：撮影ボタンの右上にあるボタン。音声メモを録音・再生します。
- ・ 右下ボタン：撮影ボタンの右下にあるボタン。現在の文書に関する情報を報告します。
- ・ 側面上ボタン：本体左側面にあるボタン。音量を切りかえます。
- ・ 側面下ボタン：本体左側面にあるボタン。音声の種類を切りかえます。
- ・ USB ポート：本体下側面にある長方形の接続口。充電アダプタ、イヤホン、およびパソコン等と接続する際の USB ケーブルを接続します。
- ・ マイク：本体下側面にある小さな穴。音声を入力するときに使います。
- ・ カメラ：本体背面上部・中央にある小さな丸い窓。ここから印刷物を撮影します。

1.1. 電池の入れ方

携帯リーダーは、電池を装着した状態で出荷されています。なお、電池が消耗した場合は、以下の手順に従って本体に電池を入れてください。

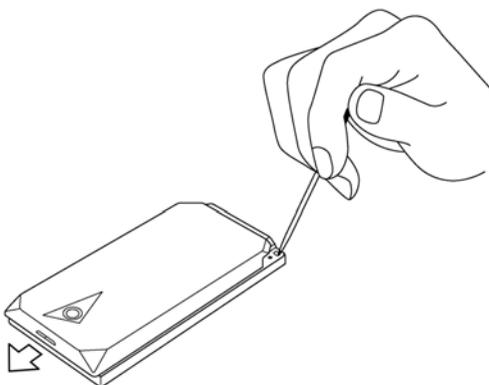
本体裏面にはカバーが取り付けられています。

1. まず本体を裏返し、カメラの穴が上向きになるように置いてください。

以下、本体の電源ボタンがあるほうを「上」と呼びます。

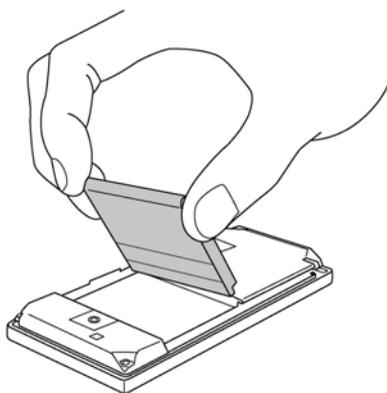
2. 左側面の下から 1 センチほど上に引っかかる箇所がありますので、そこに爪をかけて手前に引きます。すると、棒状のペンを取り出すことができます。
3. ペンが入っていた穴の隅に小さなくぼみがあるので、そこにペンを突き立て、本体上に向かってゆっくり倒してください。すると、本体裏面に装着されていたカバーが、数ミリほど上にスライドします(図 1)。これでカバーを手で取りはずせるようになります。

(図 1)



4. カバーをはずすと、中心部に 3 センチ四方ほどのへこみがあり、その左下隅から小さな針のような電極が突きでています。この電極と合うように電池をはめこみます。
5. 電池のまわりを触ると、1箇所だけギザギザしている部分があります。ここが本体の電極と接触する部分です。この部分が左下になるように、まず電池の下側と本体のくぼみを合わせてください（図 2）。つぎに電池をしずかに倒すようにして上側をはめこみます。このとき本体の電極を傷つけないようにくれぐれもご注意ください。

（図 2）



6. 本体裏面のプラスチックカバーをとりつけます。カバーを本体の上に少しずらして置き、静かに手前にスライドさせると元通りの位置に戻ります。
7. 先ほど取りだしたペンを本体左下の穴に戻します。

第2章 固定台

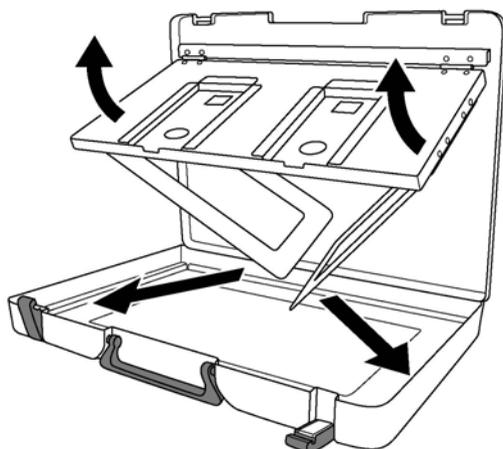
携帯リーダーは、本体背面にあるカメラで撮影した画像を認識します。正しく文字を認識するためには、まず印刷物をきれいに撮影することが不可欠です。

固定台は、印刷物を携帯リーダーできれいに撮影するための補助具です。固定台は、A4サイズまでの印刷物が置けるように作られています。以下ではこの固定台を組み立て、携帯リーダーを正しく置いて撮影する方法を説明します。

2.1. 組み立て方

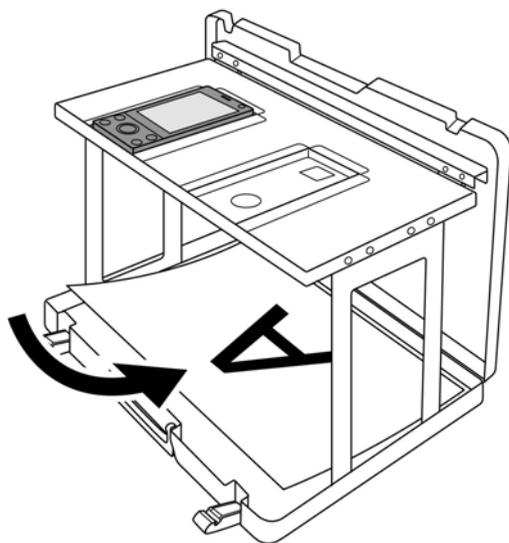
固定台を組み立てるには、まず、ネジが表に出ている側を上にして置いてください。固定台の持ち手から左右7センチほどの両側に、フタの留め具があります。この留め具を外すと、フタを持ち上げることができます。

フタの内側には磁石がついており、板が留められています。この板をフタから引き離し、内側に折りたたまれていた脚が開いてきます。この脚をケース内側左右にある溝にはめ込むと板が安定します。これで固定台は完成です。



2.2. 携帯リーダーの置き方

固定台の板の上には、本体を置くためのくぼみが左右2箇所あります。携帯リーダーは1回の撮影でA4サイズの半分の領域を認識できるため、A4サイズの印刷物を読むときは、左右のくぼみを使って2回に分けて撮影します。板の下に読みたい印刷物を置き、板の上のくぼみに携帯リーダーをセットします。これで、撮影準備は完了です。



2.3. たたみ方

携帯リーダーの使用が終わって、固定台をたたむときは、まず本体を置いていた板を持ち上げ、左右の脚を内側に折りたたんで、固定板をフタの内側に押し付けます。すると固定台のフタの内側の磁石に固定されますので、この状態でフタを閉じて左右の留め具でフタを固定します。これで持ち運びができる状態になります。

第 3 章 起動と終了

携帯リーダーの本体上側にある電源ボタンを押すと電源が入ります。まず、電源投入直後に一瞬振動します。その後しばらくして「携帯リーダー」という音声流れ、つづいて「文字読みモード」と発声します。これで携帯リーダーが使用可能な状態になります。

携帯リーダーが起動している状態では、本体前面のパネルやボタンを押したときに「カチリ」という音がします。充電アダプタを接続していない場合は、何も操作せずに5分間たつと軽く振動して自動的にスリープ状態になり、パネルやボタンを押しても反応しなくなります。また、電源ボタンを1度だけ軽く押してもスリープ状態になります。電源を軽く押す操作は、スリープ状態のオン・オフを切り替える動作になります。

通常は、携帯リーダーの電源を完全に切る必要はありません。しかし、何らかの原因により動作がおかしくなった場合は、いったん電源を完全に切って再起動することにより本体を正常な状態に戻すことができます。携帯リーダーの電源を完全に切るときは、電源ボタンを通常よりも長く押ししてください。終了音が鳴って電源が切れます。この後、もう一度電源ボタンを押すと、携帯リーダーが通常どおりに起動します。なお、電源を完全に切っても携帯リーダー内部の情報が失われることはありません。

携帯リーダーの電池を充電するには、付属のUSBケーブルと充電アダプタを接続します。充電アダプタのプラグを持ち上げコンセントに接続します。

USBケーブルのもう片方を、本体のUSBポートに差し込みます。あるいは、パソコンをお持ちの場合は、USBケーブルの片方をパソコンのUSB端子に接続し、もう片方を本体のUSBポートに接続することで充電が可能です。

充電は通常約3時間ほどで完了しますが、この時間はバッテリーの寿命等により変化することがあります。

第4章 各モードの役割と操作

携帯リーダーでは、撮影した画像を4種類の異なるやり方で読みあげることができます。このやり方を「モード」と呼びます。携帯リーダーには、以下のモードがあります。

- A. 文字読みモード：画像を連続した文章として読みあげるモード。書籍や書類を読むときに使います。
- B. ブロックモード：画像の文字をいくつかの「かたまり」として読みあげるモード。郵便物や請求書などを読むときに便利です。
- C. 色読みモード：画像の色を読みあげるモード。物体や景色の色を知りたいときに使います。
- D. 拡大モード：画像を拡大表示するモード。印刷物を拡大して見たいときに使います。（音声による読みあげはおこないません。）

携帯リーダー起動時は「文字読みモード」になっています。現在のモードを切りかえるには、左下ボタンを使います。左下ボタンを1度だけ押すと文字読みモードとブロックモードが交互に切りかわり、左下ボタンを長く押すと文字読みモードから色読みモードへ、色読みモードから拡大モードへと切りかわります。

4.1. 文字読みモード

文字読みモードは、撮影した画像を認識し、そこに書かれている文字をひとつつながりの文章として読みあげるモードです。

まず、文字読みモードの状態では撮影ボタンを押すと、新しい画像の撮影を開始します。このとき画面には現在カメラに映っている景色が表示されています。ここでもう一度撮影ボタンを押すと、「ピピ」という音がして、その時点の画像をとりこみます。

この後、文字認識処理を開始します。処理中は継続的な音が流れ、処理が完了するとその文章の先頭から自動的に読みあげを開始します。

文字読みモードでは、本体前面のパネル（画面）を手で触れることにより読みあげ操作をおこないます。読みあげを停止・再開するには、パネル表面を1回押します（タップ）。読みあげ位置を変えるには、パネル表面を指でなぞることによりおこないます。

- ・ 次の文に進むには、パネルを上から下になぞります。
- ・ 前の文に戻るには、パネルを下から上になぞります。
- ・ 文字を1文字ずつ詳しく読むには、パネルを左から右になぞります。
- ・ 前の文字に戻るには、パネルを右から左になぞります。
- ・ 文章の最後あるいは次のページに進むには、パネルの左上隅から左下隅、そして右下隅へと「L」の字を描くように指を動かします。（ページの説明については5.1節を参照してください。）
- ・ 文章の先頭あるいは前のページに戻るには、パネルの右下隅から左下隅、そして左上隅へと逆順で「L」の字を描くように指を動かします。（ページの説明については5.1節を参照してください。）

4.2. ブロックモード

ブロックモードは、文字読みモードと同じく撮影した画像を認識しますが、ひとつながりの文章として読みあげるのではなく、実際の紙に書かれている「かたまり」ごとに読みあげるモードです。

携帯リーダーをブロックモードに切りかえるには、文字読みモードで左下ボタンを1回押します。画像の撮影方法は文字読みモードと同じで、まず撮影ボタンを押して、新しい画像の撮影を開始します。もう一度撮影ボタンを押すと、「ピピ」という音がして、その時点の画像をとりこみます。この後、文字認識処理を開始します。処理中は継続的な音が流れ、処理が完了するとその画像の状態を報告します。

ブロックモードでは、文字読みモードとは異なり、本体前面のパネル（画面）を手で触っている間だけ読みあげをおこないます。

認識された文字は、通常いくつかの四角形の「ブロック」に分けられ、パネル上に配置されています。

パネル表面全体が撮影した画像に対応しており、パネル上のある場所を触ると、その位置のブロックに書かれている文字を読みあげます。パネルに指を押しつけると、本体がすこしの間、振動することがありますが、これは、そのブロックの大きさを表しています。大きなブロックは沢山の文字が含まれている可能性があります。読みあげが各ブロックの終わりに到達すると「プー」という音で知らせます。パネルに指を押しつけながら動かしていくと、指があるブロックから出たときに軽く振動し、別のブロックに入ったときにまたその大きさに比例して振動します。

4.3. 色読みモード

色読みモードは、撮影した画像の各部分の色を認識して読みあげるモードです。

携帯リーダーを色読みモードに切りかえるには、文字読みモードあるいはブロックモードで左下ボタンをすこし長めに押します。画像の撮影方法は文字読みモードと同じで、撮影ボタンを使います。撮影後、画像の上にある色を多い順に3つまで読みあげます。このとき、高い声はその色が明るいことをあらわし、低い声はその色が暗めの色であることをあらわします。

色読みモードでは、パネル表面を押すと、その位置に対応する画像の色を読みあげます。画像が複雑になっている部分を押すと、本体は振動します。なお、画像に文字が書かれている場合は、色読みモードで撮影してから文字読みモードまたはブロックモードに切りかえると、その画像の文字認識処理をおこない、読みあげを開始します。

4.4. 拡大モード

拡大モードは、撮影した画像をパネル上の画面に拡大表示するモードです。音声による読みあげはおこないません。

携帯リーダーを拡大モードに切りかえるには、1 度色読みモードに切りかえてから、さらに左下ボタンをすこし長めに押します。

画像の撮影方法は他のモードと同じく、撮影ボタンを使います。撮影が終わると、画面上には撮影された画像が白黒表示され、「1 倍表示」とアナウンスします。

拡大モードでは、画面に表示されている画像を指でなぞることによって表示範囲を移動させます。左下ボタンを1 度押すと、画像の表示倍率が「1 倍」「2 倍」「4 倍」「8 倍」「全体表示」の順に変わります。

約 20cm の距離から撮影した場合、この倍率は現実の拡大率にほぼ対応しています。右下ボタンを1 度押すと、画像の色が反転します。拡大モードで左下ボタンをもう一度長押しすると、文字読みモードに戻ります。

 **注意：** 拡大モードで撮影した画像は、文字読みモードあるいはブロックモードにしても読みあげることができません。

第5章 各モードに共通の機能

5.1. ページの移動

携帯リーダーは、撮影した画像をすべて記憶しています。撮影を1回おこなうごとに、その画像を格納した1枚の「ページ」が作られ、携帯リーダー内部に格納されます。以前に撮影したページを読みあげるには、まずそのページに移動する必要があります。これはメニューを使っておこないます。

メニュー操作をおこなうには、まず左上ボタンを押します。すると「メニュー表示」というアナウンスがあり、タッチパネルの状態が変化します。この時点でパネル上には12個の仮想的な「ボタン」が配置され、パネル上のある部分に触れると、その部分に対応したボタンの名前が読みあげられるようになります。

前ページ	ページ 削除	次ページ
前文書	日付・時刻 変更	次文書
表示色 変更	サイズ 変更	画面 回転
文書 情報	システム 情報	バージョン 情報

「メニュー表示」画面

実行したい操作のボタンに触れている状態で、もう一度左上ボタンを押してください。その操作が実行されます。パネルに触れていない状態で左上ボタンを押すと、メニューは取り消され、何も操作はおこなわれません。

別のページに移動するには、まずメニューを表示してから「前のページ（左上隅の部分）」または「次のページ（右上隅の部分）」と呼ばれる部分を選択します。文字読みモードの場合、同様の操作はパネル上を「L」字型になぞることによってもおこなえます（4.1節を参照）。最初に「前のページ」を選択した場合、携帯リーダーはページを移動する前に、まず現在のページの先頭に移動します。もう一度「前のページ」を実行すると、実際に前のページに移動します。同様に「次のページ」を選択した場合、携帯リーダーは次のページに移動する前に、現在のページの末尾に移動します。

5.2. ページの削除

撮影した画像を削除するには、「ページの削除」という操作を実行します。まず、左上ボタンを押してメニューを表示させ、「ページの削除」を選択してください。ここで、「このページを本当に削除しますか」という確認がおこなわれます。ページを削除するときには、「はい、削除します」を選択してください。削除したくないときには、「いいえ、削除しません」を選択するか、あるいはタッチパネルから手を離れた状態でもう一度左上ボタンを押してください。

5.3. 文書の移動

携帯リーダーでは、各ページはさらに「文書」という単位にまとめられます。文書はそのページを撮影した日付ごとに分けられており、たとえば3月4日に撮影したページはすべて「3月4日の文書」という文書の中に入ります。次の日にページを撮影すると、そのページは自動的に「3月5日の文書」という文書の中に入ります。

文書を削除するには、その文書中のすべてのページを削除してください。

5.4. 音声メモ

携帯リーダーで撮影した各ページには、最高 15 秒間までの音声によるメモをつけることができます。右上ボタンを1回押すと、現在のページのメモを再生します。メモを録音するには、右上ボタンを長押しします。録音開始の音が鳴りますので、右上ボタンを押し続けたままでしゃべってください。ボタンを離すと録音が終了し、「録音完了」のアナウンスがあります。

 **注意:** 15 秒を超えて音声メモを録音をした場合、最初の 15 秒までしか記録されません。

第6章 各種設定と情報

6.1. 音量と音声の変更

●音量の変更

携帯リーダーの読みあげの音量を変更するには、本体の左側にある側面上ボタンを押します。ボタンを一回押すごとに音量が4段階で変わります。音量1が最小、音量4が最大です。音量4を超えるとまた音量1に戻ります。

●音声の変更

携帯リーダーの読みあげ速度と読みあげ音声の種類を変更するには、本体の左側にある側面下ボタンを押します。ボタンを一回押すごとに読みあげの速さと音声の種類が6段階で切りかわります。これは「速さ1(男性)」→「速さ2(男性)」→「速さ3(男性)」→「速さ1(女性)」→「速さ2(女性)」→「速さ3(女性)」という順序になっています。速さ1はもっと遅く、速さ3が最高です。速さ3を超えるとまた速さ1に戻ります。

6.2. 画面表示の変更

●画面の向きの変更

携帯リーダーの画面の向きを変えるには、メニューから「画面回転」を選択します。画面の向きが90度回転します。ふたたび「画面回転」を選択するとともに戻ります。

●表示色の変更

携帯リーダーの画面に表示する文字の色を変更するには、メニューから「表示色変更」を選択します。「黒地に白」あるいは「白地に黒」のいずれかが切りかわります。

●文字サイズの変更

携帯リーダーの画面に表示する文字の大きさを変更するには、メニューから「サイズ変更」を選択します。画面に表示する文字サイズが3段階で変化します。

6.3. 日付と時刻の変更

携帯リーダーは日付によってページや文書を分けるため、正しく文書を管理するには現在の日付を正しく設定する必要があります。これは、メニューから「日付と時刻の変更」を選択することによっておこないます。この項目を選択すると、タッチパネル上に数字が表示され、日付または時刻を入力できる状態になります。ここに電話機と同じ要領で数字を1桁ずつ入力していきます。

タッチパネル上の数字は電話機の数字と同じ順序で並んでおり、画面の左上から順に「1」「2」「3」、2段目に「4」「5」「6」、3段目に「7」「8」「9」、4段目の中央に「0」があります。4段目の右下のボタンは「確定」となっており、左下のボタンは「1文字削除」となっています。メニューの項目を選ぶのと同じ要領で、1桁ごとに入力したい数字の部分を押しながら左上ボタンを押してください。数字をひとつ入力するたびに、携帯リーダーは入力されたすべての数字を読みあげます。

日付を変更するには、6桁の数字を入力したあと「確定」を実行します。たとえば2010年1月18日なら「100118」と入力します。同様に、時刻を変更するには4桁の数字を入力して「確定」を実行します。たとえば21時59分なら「2159」のように入力して「確定」を実行します。入力が確定すると、変更した日付あるいは時刻が報告されます。タッチパネルに触れていない状態で左上ボタンを押すと、日付と時刻の設定はすべてキャンセルされます。

6.4. 各種情報の報告

●文書情報

メニューから「文書情報」を選択すると、現在の文書名と、文書中に含まれているページ数を報告します。

●システム情報

メニューから「システム情報」を選択すると、現在時刻とバッテリー状態、現在の文書の数、保存領域の空きパーセントを報告します。なお、右下ボタンを長押ししても同様の内容を報告します。

●バージョン情報

メニューから「バージョン情報」を選択すると、現在の携帯リーダーのバージョン番号を報告します。

第7章 外部の機器との接続

7.1. 専用イヤホンとの接続

携帯リーダーには、専用のイヤホンが付属しています。これは充電アダプタを接続するのと同じ本体下のUSBポートに接続して使用します。専用イヤホンには撮影ボタンがついており、これを使うと、本体の撮影ボタンに手をふれずに画像を撮影することができます。

⚠注意：市販のイヤホンを携帯リーダーに接続することはできません。

7.2. パソコンとの接続

本体をパソコンとUSBケーブルで接続して、本体内部の画像データを閲覧することができます。ただし携帯リーダーで文字認識したデータは本製品の独自形式であるため、パソコンで直接読みあげることができません。

⚠注意：パソコンと接続中は、携帯リーダーで新しい画像を撮影したり、以前のページを読みあげることができません。

7.3. よむべえとの接続

本体をUSBケーブルで音声・拡大読書機「よむべえ」に接続すると、「よむべえ」のUSBモードで本体内部のコンテンツを読むことができます。

⚠注意：上記機能をカバーする「よむべえ」は2010年1月以後に発売された機器またはそれと同等の機能を持つバージョンのものに限られます。

第 8 章 故障かな？と思ったら

8.1. 電源が入らない

- ・ 携帯リーダーに電池が装着されているかどうかを確認してください。
- ・ 電池の残量が少なくなっている場合は、電源が入らないことがあります。このような場合は、本体に充電アダプタをとりつけてください。

8.2. ボタンを押したり、パネルに触れても反応しない

- ・ 携帯リーダーの電源が入っているかどうかを確認してください。携帯リーダーの電源が入っている場合は、パネルに触れると「カチリ」という音がします。また、携帯リーダーは何も操作しないまま 5 分間経過すると自動的にスリープモードになります。スリープモードを解除する場合には、電源ボタンを軽く 1 回押してください。
- ・ もし、電源が入っているにもかかわらず、どのボタンを押しても反応しない場合は、1 度携帯リーダーをリセットしてみてください。電源ボタンを長押しして終了すると、リセットが実行されます。なお、リセットをしても内部の文書データが消えることはありません。

8.3. 音声をしゃべらない

- ・ 携帯リーダーの電源が入っているかどうかを確認してください。携帯リーダーの電源が入っている場合は、パネルに触れると「カチリ」という音がします。また、携帯リーダーは何も操作しないまま 5 分間経過すると自動的にスリープモードになります。スリープモードを解除する場合には、電源ボタンを軽く 1 回押してください。
- ・ イヤホンが接続されていないかどうか確認してください。イヤホンが接続されていると、音はすべてイヤホンから出力され、本体のスピーカーからは出力されません。

- ・ 音量が小さく設定されていないかどうかを確認してください。本体の側面上ボタンを押すと、音量が調整できます。

8.4. 撮影しても読みあげない

撮影しても内容をほとんど読まないか、あるいは意味のない内容しか読みあげない場合は、以下のことを確認してください。

- ・ 撮影時に本体が動かないようにしてください。撮影時に本体が動いてしまうと、画像のブレにより認識精度が低下します。このような現象を避けるためにも、安定した場所に固定台を置いて使うことをおすすめします。
- ・ 明るい場所で撮影するようにしてください。携帯リーダーの文字認識には、周囲の明るさが影響します。普通の人が目で文字を読むのに必要な明るさがあれば基本的には大丈夫です。全盲の方が本製品を利用して印刷物を読む場合、うまく読めなかったときには、部屋の電気がついているかどうかを確認してください。
- ・ 固定台を使わないで撮影する場合は、撮影対象から本体を少なくとも 10 センチほど離して撮影してください。本体が対象物に近づくと、カメラの焦点を合わせにくくなると同時に、手ぶれや周囲の影の影響を受けやすくなります。
- ・ カメラの撮影部分が汚れていないことを確認してください。本製品に付属しているお手入れ用の布で定期的にカメラ部分を拭くと、撮影部分をきれいに保つことができます。また、カメラにキズがつくと正常な画像が撮影できなくなる場合がありますので、カメラの撮影部分にはなるべく指を触れないようにしてください。

8.5 ボタンの反応が悪い

正面の飛び出した4つのボタンは、シールが貼りつけてあるだけです。ボタン操作の力の加減によっては、このシールをはがして操作いただいたほうが、携帯リーダーの反応がよくなる場合があります。

(ボタンの位置をある程度おぼえてから、シールをはがすことをお勧めいたします。)

